


銅・アルミレポート

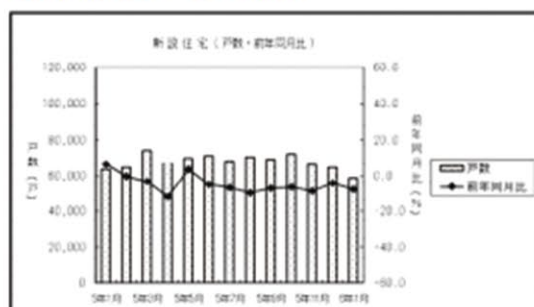
橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



2月の銅の概況および3月の見通し (2)

予想レンジ		
LMEセツル	8,000-8,500ドル	●
建値	120万円-132万円	●
為替	145円~150円	●
(1か月間TTM)		レンジ内

新設住宅 (戸数・前年同月比)



◆貿易関連指標

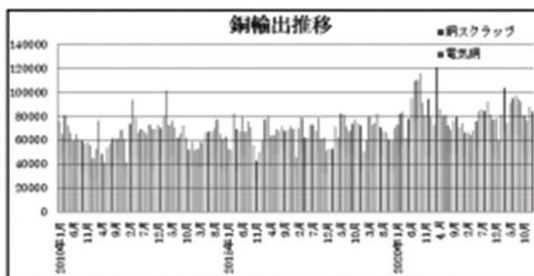
銅

【輸出】

電気銅は+31.1%の5万8,092 t。
スクラップは+65.3%の2万5,632 t。

輸出	11月	12月	1月
電気銅	3万9986 t	4万7539 t	5万8092 t
前年比	-13.9%	-5.6%	+31.1%
スクラップ	3万6780 t	4万562 t	2万5632 t
前年比	+20.2%	+45%	+65.3%

輸出推移

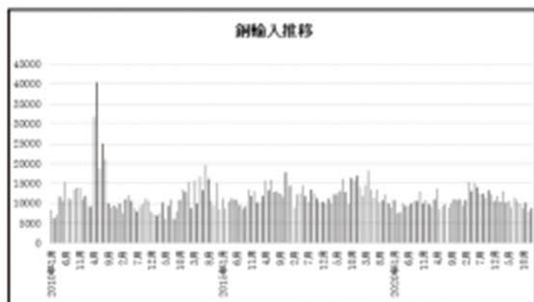


【輸入】

電気銅は+358%の596 t。
スクラップは-30.7%の8,200 t。

輸入	11月	12月	1月
電気銅	2822 t	22 t	596 t
前年比	+341.6%	-21.4%	+358%
スクラップ	7367 t	7986 t	8200 t
前年比	-36.7%	-25.1%	-30.7%

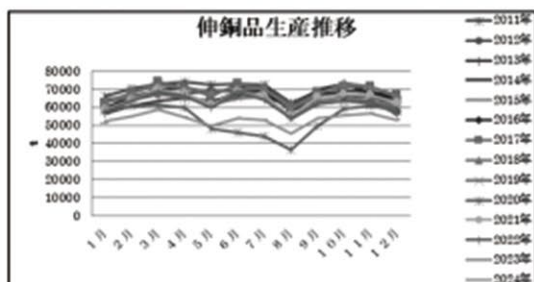
輸入推移



■前月の国内指標

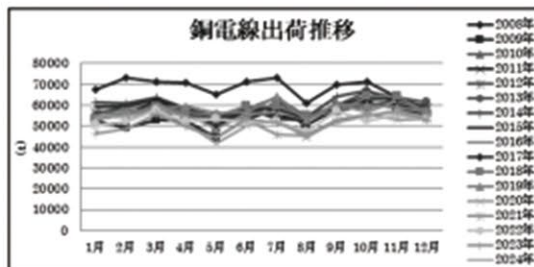
【伸銅品生産】

1月伸銅品生産量速報値は5万830トン、前年同月比4.0%減少。半月の生産量としては、前年同月比で25か月連続のマイナスとなった。ただ、同比のマイナス幅は、急速に小さくなってきている。



【日本電線工業会発の出荷速報 (推定)】

前年比+0.3%の47,500 t。
内訳は国内が+1.6%、輸出が+19.8%。



出典 日本電線工業会

(次頁へ)

日刊金属 既刊収録サイト


<https://nikkankinzoku.co.jp/>

■国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると1月の自動車生産台数は前年比-6.3%の54万8,912台。輸出は前年同月比+18.3%の28万595台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると2月の自動車販売台数(軽除く)は前年比-16%の22万6,769台。

【伸銅品生産】

1月伸銅品生産量速報値は5万830トン、前年同月比4.0%減少。単月の生産量としては、前年同月比で25か月連続のマイナスとなった。ただ、同比のマイナス幅は、急速に小さくなってきている。

自動車関係の需要回復が端子コネクタを中心に着実に回復し、銅条や黄銅条などの生産量回復を支えている。また、コンデンサチューブの需要増加が銅管生産量を、ワイヤカットの需要が銅線の生産回復を支え、大型建設関係の配電盤需要増加が銅板や銅棒の生産を支えている。

銅条: 同比17ヶ月連続マイナス。引き続きマイナス幅は小さい。車載向けの半導体やコネクタが下を支えている。しかし、車載以外の半導体や端子の需要が回復気味だが、それが銅条の生産増加になかなか直結してこない。パソコンや民生用のデジタル家電や白物家電向けも低調が続いている。ダイハツや豊田自動織機の不正問題による自動車端子コネクタ向けの生産への影響はまだ見えてこない。

黄銅棒: 同比25ヶ月連続マイナス。ただ、同比1桁パーセント台まで回復してきた。

【見通し】【自動車】

前月に続きダイハツ、トヨタ問題による生産販売低迷が今後しばらく続きそう。

【伸銅品生産】

これまでと同じく自動車向けの需要回復が全体を底上げ

している。ただ、2024年初めの車載を除く半導体向けの需要は、例年、旧正月前に見られる中国などの増加基調が見えて来ない。一方、能登半島地震による伸銅品の需要への影響は1月時点の生産にまだ見えてこない。

【電線】

5か月ぶりプラス、今後注視。

【スクラップ景況予想】

流通【一次問屋】銅建値が130万から131万と高値安定傾向だった。在庫は伸銅品生産減、発生減から在庫薄。需要面に関しては低位安定。自動車関連で回復は見られるものの生産量は25か月連続減少。旧正月前に見られる中国などの増加基調が見えて来ない。

【LME・為替予想】

今月は以下の項目に左右される。

①米FRBの金融政策：パウエル議長が根強いインフレ圧力を最新の指標が示す中で利下げを急いでいないとのメッセージをあらためて強調していることや2月に発表されたインフレ加速を示す一連の指標から考えれば3月の利下げはない。

②中国全人代の内容：中国政府は北京で5日開幕した全国人民代表大会(全人代、国会に相当)で、今年の国内総生産(GDP)成長率目標を5%前後に定めたほか、今年1兆元(約20兆9,000億円)の超長期特別国債を発行する計画を発表。それでも金属相場の当初の反応からは、不動産不況と製造業の低迷からすぐに脱出できると予想されていない。

中国は例年3月から4月にかけて繁忙期を迎えるが、建設が活発化する兆しはほとんどない。

これらを踏まえた今月の銅価格は8,000-8,500ドル(セツル)との予想。ドル円値は145円~150円(TTM)台を予測。銅建値に関しては120万-132万円程度と予測している。

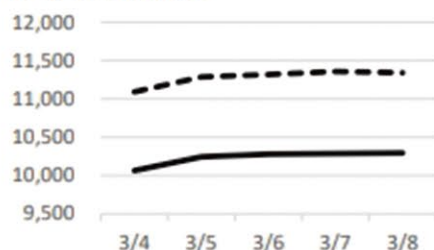
(「2月の銅の概況および3月の見通し」おわり)



金銀山元建値週間推移

3月4日~3月8日

金山元建値週間推移



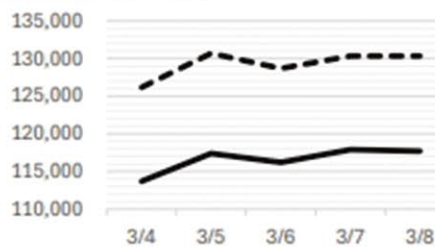
	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8
--- 金小売	11,093	11,287	11,320	11,360	11,342
— 金建値	10,067	10,245	10,282	10,288	10,297

2月平均 建値 小売

金(¥/g) 9,756.21 10,756.21

銀(¥/kg) 110,870 123,280

銀山元建値週間推移



	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8
--- 銀小売	126,170	130,680	128,700	130,350	130,350
— 銀建値	113,670	117,380	116,220	117,880	117,680